

国学四大人を祀る

本学神社

高森町歴史民俗資料館



一. 本学神社の創建

(1) 社地の決定と社号

平田篤胤翁の学風を慕い、思想に共鳴し、伊那谷で初めて没後の門人となったのは、山吹藩の家老片桐春一^{はるかず}であった。春一を中心とした山吹の平田学徒は、「義雄集」・「書籍調集」等の会合を通じ、平田古神道の研究に没頭し、やがて研究だけでは満足できず宗教的な古神道を信奉するようになった。その結果、国学の四大人^{よにん}を祀る神社を創立する動きが活発になり、慶応年間に入り、同門の座光寺北原信質^{のぶかた}をはじめ、広く伊那谷同門の人々の協力を得て着手することになった。

社地は山吹^{こえたやま}條山にさだめ、社号は平田^{かわたね}鏡胤によって「本学霊社」と命名されたが、なじまず、いつしか「本学神社」と呼ばれるようになった。

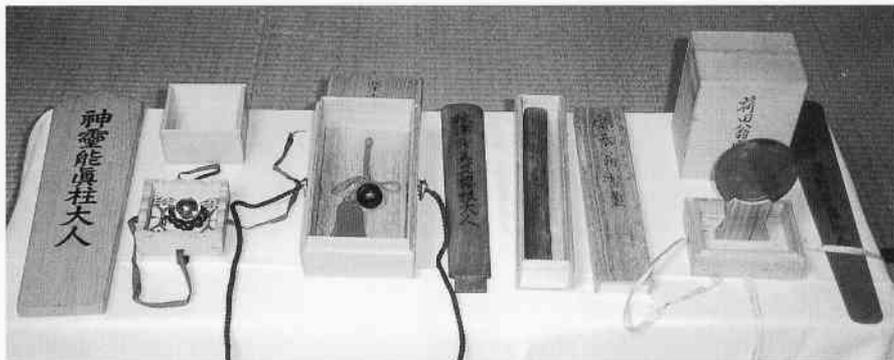
・所在地 長野県下伊那郡高森町山吹。條山の山頂 標高720m。

(2) 本学神社の社宝(国学四大人の御^{みたましろ}霊代)

山吹社中の人々は、国学四大人遺愛の品をそれぞれの宗家に懇請し、御霊代として祀ることを考えた。山吹平田門人が最初に平田家に懇望したのは、篤胤が陽石崇拝者であったことから、まず陽石の譲り受けを交渉した。この陽石は篤胤の遺命により、最初に建てる平田国学の神社へ納めることになっていた。山吹より先に話がかけられていたのは出身地の秋田と甲州であり、それぞれ事情があって延引していたので山吹へ譲られた。

平田家以外の荷田・賀茂・本居の宗家から贈られた品が、鏡・剣・鈴であり釣り合いの問題もあって平田家からは、水晶玉と瑠璃玉が贈られ、太陽石は別な場所へ祀るという条件がつけられた上で贈られてきた。四大人の家から贈られてきた品は次のようなものであった。

荷田春満 …………… 円鏡一面 と「荷田東磨信盛宿祢命」の御笏
賀茂眞淵 …………… 短刀一口(白鞘無銘)と「本居翁霊爾」
本居宣長 …………… 鈴 一箇 「秋津彦美豆桜根大人」
平田篤胤 …………… 水晶玉 一・瑠璃玉 九、太陽石 と 鉾石



国学四大人宗家より贈られた社宝

(3) 勸請遷宮式

山吹の平田門人を中心に社地の決定、御霊代の懇願と譲り請けの一方、社地の地ならしをなし、慶応3年正月社殿の造営にとりかかり、同3年3月24日待望の遷宮式が挙行された。

当日は麓の山吹村追分高橋多藏^{たかつ}氏宅において一切の準備を調べ、古式にのっとり夜中の丑の刻(今の午前2時頃)松明を燈して同家を出発した。当日の参列者は118名。山吹は言うに及ばず、伊那谷・中津川の主要な門人が殆ど顔を揃えた。「條山御遷宮御行列之記」に記されている参列者の出身地は、山吹40人・伴野8人・小野8人・飯田7人・座光寺6人・田島4人・竹佐3人その他大島・清内路をはじめ25の村から参列している。役割分担は細かく豊富でいかに古式に則った祭典であったかが伺い知れる。

二. 義雄集 (まめをのつどい)

義雄集は、出原村宝泉寺の賢亮や田島村の前澤萬重等が提唱し、片桐春一以下山吹の同門の人達13人によって創設された平田国学の研究会である。

春一が起草した趣意書の「義雄集 忠言 起 序」によれば、篤胤の命日である11日を祭日と定め、門人たちが集まって篤胤の肖像の前で祝詞を捧げ、その後古道を議論したり、篤胤の遺著を読んで勉強したことなどが書かれている。

また、宝泉寺賢亮の草した会則がある。要約すれば、①当番は交替で行なう。②大人命の前に供える供え物は当番の心次第。酒は一升だけ。③食事は各自が持参。酒は供えた一升だけ。酒の肴は各自持参した弁当のおかずですませる。④当番は粗茶、つまみは(ほし柿・煎り豆・いりもちの類)、高価なつくり菓子その他の食物一切出さないこと。⑤午の刻(12時)に集まって、亥の刻(22時)までには散会。但し、農繁期、夜昼の長短により適宜変更もある。等々。

最初13人で発足した平田学の研究会であったが、家臣ばかりではなく、農民層の間にも広まって、生活に少し余裕がある者が殆ど参加するようになった。

三. 書籍調集 (ふみととのえのつどい)

義雄集が国学の研究会であったのに対し、書籍調集は良い本を購入するための購読会に相当する。同志の者が無尽の方法で共同出資をし、江戸や京都から良書を購入したのである。幕末から明治の初年にかけて日本の政治・文化の中心地であった江戸や京都から良書を取り寄せて勉強することなどは僻地では考えられないことであり、勉強に対する熱意と卓越した見識には敬服のほかはない。片桐春一が起草した書籍調集設立の趣旨には次のように誌されており、当時の門人の意気込みが感じられる。

「僻地は書籍乏しく、文学に志有る者も博く書籍を閲る事成かたく、長息之至なり。これに依り同志之者集議して年々歳々に書籍を調べ、同志之者は勿論、其の他有志の者に貸閱せしめ、僻地にも博識の才子出む事を欲して書籍調集を催す。」と述べ、十一項目にわたって規定(会則)が記されている。

概要を抄記すれば、

- ① 期限は10年(のち6年に変更)
- ② 集会の日最初は1年に1度、のち、春・秋の2回に変更。
- ③ 書籍料の集金のこと。
- ④ 会主(当番)は、前の年に籤で決める。
- ⑤ 書料を得ることも籤で決める。
- ⑥ 会合の折は、粗茶。また酒の肴は、大根・南瓜・茄子・ささげ・牛蒡・甲州芋・蕪菜・冬菜・人参等のうち幾品か煮て出す。魚類は出さないこと。
- ⑦ 購入図書は前年の会合の時集議で決める。……等々。



書籍調集会録

四. 国学四大人の画像



国学四大人画像掛軸

本学神社は、わが国で初めて国学の四大人を祀った希有の神社である。

祭神は、荷田春満・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤の四大人であり、この四大人を一社に合祀してあるのは日本で二社のみである。

ここに掲げた画軸は、国学四大人の肖像を一軸に描き、その上にそれぞれの歌を書いたもので、本学神社の社宝として藏されている。もともとのこの軸は、伊那谷で最初に平田篤胤没後の門人となった山吹の片桐春一が、慶応年間のはじめに篤胤の養嗣子になった鏡胤に依頼して描いて貰ったものである。

軸の最後のところに「応片桐春一主需平鏡胤謹書」と署名されていることによって明らかである。

また、この軸がなぜ本学神社の社宝になったか、その由来が箱の上蓋の中に墨書されている。それによると、「四大人の御像掛軸一軸、片桐家の由緒ある品として今日まで秘蔵せられしを昭和三十二年五月十五日祭典に当たり片桐寿氏未亡人より特に本学神社へ寄進せられたるものなり」と記されている。

上半分には、四大人の神号と和歌とが記されている。

荷田春満	荷田宿禰羽倉大人 <small>かだのすくねはくらのうし</small>	踏みわけよ	倭にはあらぬ <small>やまと</small>	漢鳥の <small>からとり</small>
			跡を見るのみ	人の道かは
賀茂真淵	賀茂県主岡部大人 <small>かものあがたぬしおかべのうし</small>	飛驒たくみ	本めて造れる	真木柱 <small>まきしら</small>
			たてし心は	動かざらまし
本居宣長	秋津彦瑞桜根大人 <small>あきづひこみずさくらねのうし</small>	敷島の	大和心を	人とはゞ
			朝日に匂う	山桜花
平田篤胤	神靈能真柱大人 <small>かむだまのまはしらのうし</small>	雲となり	あるは雨とも	ふりしきて
			神代の道に	身をやつくさむ